

東京都立 多摩総合医療センター

医療連携の更なる推進を ～就任のご挨拶とともに～

多摩総合医療センター事務局長 古屋 留美

この度、7月16日付の人事異動により事務局長を拝命いたしました古屋と申します。近隣医師会の先生方をはじめ、医療関係機関の皆様方には、多摩地区を中心とした医療、とりわけ医療連携につきまして、日頃よりご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は前職までは、道路・河川等の都市基盤整備、福祉保健などの事業に従事してきました。医療の分野に直接関与したことはありませんが、福祉保健分野で生活保護を担当していた折に、病院を中心とした地域の多くの機関に様々な支援や協力をいただき、困難な事例にも日々なんとか対応するという経験をいたしました。立場が変わって医療サービスを提供する側となり、今後一生懸命勉強してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、多摩総合医療センターは、人口400万人を超える多摩地域において、総合的な医療機能を持つ唯一の都立病院として平成22年3月に開設、8月には全病棟がフルオープンとなり、本年8月からは5年目のスタートとなりました。

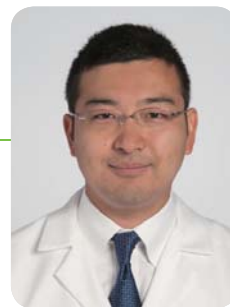
多摩総合医療センターの最大の使命は、救急医療、がん医療、周産期医療を三本の柱としつつ、あらゆる疾病に対応できる設備・機能を十分に活用し、多摩地域の中核的な医療拠点として、地域全体の医療水準の向上の中心的な役割を担うことにあります。こうした使命を十全に果たすためには、センター自らが医療技術の進歩に的確に対応した質の高い医療を提供し続けるとともに、医療環境の変化に適切に対応して、一層の患者サービス向上を図るなど、今後も不断の努力を継続することが重要であると考えております。

一方で、多摩地域全体の医療水準の向上という点からは、医療機能の分化・連携が重要であり、とりわけ地域の医療機関が互いに連携を深め、其々の持つ医療資源を有効に活用することが必要であります。また最近では、在宅医療の充実も求められるようになっており、関係機関の皆様との協力関係の深化も重要な課題となっております。そのため、多摩総合医療センターはこれまでも、紹介・逆紹介や総合患者支援センターにおける退院支援の取組みなどにより、関係機関の皆様との協力関係を構築してきておりますが、今後はなお一層皆様との連携を密にすることで、エリア全体の医療機能の向上に寄与していきたいと考えております。

今後とも、より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



肥満・減量／代謝外科のご紹介



外科医長 清水 英治

この度、高度肥満症に対する外科を多摩総合医療センターで新規開設しましたので、ご紹介させていただきます。2014年4月よりBody mass index (以下BMI) が $35\text{kg}/\text{m}^2$ 以上かつ肥満に起因する健康障害(糖尿病、脂質異常症、高血圧、睡眠時無呼吸症候群、骨・関節疾患、月経異常、不妊、肥満関連腎症など)を合併する患者さんに対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除(図1)が保険収載され、注目が集まっております。胃の外側部分を80%程度切除し管状に形成する手術です。当院は西東京地区で唯一であり、かつ全国的にも数少ない専門医療機関です。

■ 減量・肥満・代謝手術について

1950年代からこの手術が行われている欧米、そして近年ではアジア諸国でもBMI $35\text{kg}/\text{m}^2$ 以上の肥満症に対する外科手術は一般的であり、高い治療効果が証明されています。体重を落とす手術として減量手術、肥満手術と呼ばれ、糖尿病に対する手術として代謝手術(メタボリックサージェリー)とも呼ばれます。特に手術の抗糖尿病効果には注目が集まっており、盛んに研究が行われています。手術により過剰体重の50~80%を減らし、糖尿病の55~95%を著明に改善することがわかっています。その他、脂質異常症、高血圧、脂肪肝、睡眠時無呼吸症候群などに対しても高い治療効果をもたらします(図2)。そして長期的な体重減少効果の維持により肥満全体と心血管イベントによる死亡率の低下をもたらします。医療技術の発展により腹腔鏡による低侵襲(体への負担が少ない)手術が可能となり、従来の開腹手術に比べて痛みが少ない、回復が早い、美容的に優れているなどのメリットがあり、全世界で35万件近く行われる主要な外科手術の一つです。

■ 当院の特長：チーム医療について

当院の特長は、肥満症に特化した専門性の高いチーム医療です。外科手術は肥満症に対する治療の一選択肢であり、治療の基本は食事療法、運動療法などライフスタイルを大きく変えることです。初診から手術、そして術後フォローまで外科だけでなく内分泌代謝内科、精神神経科、看護師、管理栄養士、臨床心理士という多職種が患者さんと関わります。医療者だけでなく、患者さんを含めたチーム医療体制により患者さんをいろいろな角度から長期的にサポートし、治療成功へとつなげていきます。

治療適応と思われる患者さんがいらっしゃいましたら、是非ご紹介下さい。当院予約センター(042-323-9200)を通じて予約をお取りします。減量・肥満/代謝外科の診療と伝えてください。また疑問点等ございましたらお気軽にご連絡下さい。

図1

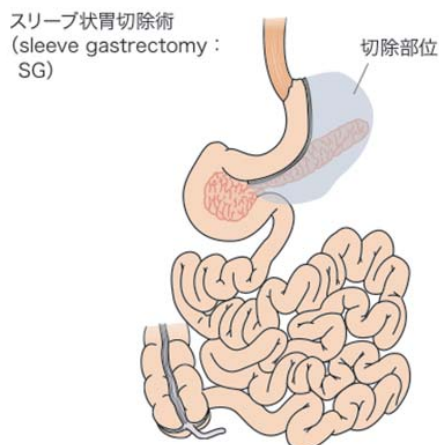
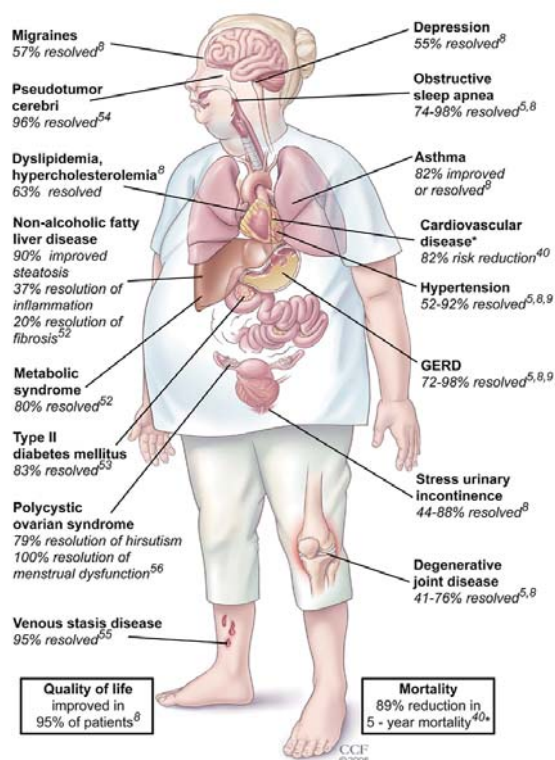


図2：手術の効果





健康診断で発見された慢性骨髄性白血病(CML)の一例



血液内科医長 梶原 耕一

【症例】 37歳男性

【主訴】 健康診断で血球増多を指摘

【現病歴】 生来健康。前年まで健康診断で異常を指摘されたことはなかったが、白血球増加(132700/ μ l)、軽度貧血(Hb10.9g/dl)、血小板増多(123.6万/ μ l)を指摘され、当院ERへ紹介となった。特に自覚症状はなかった。

【既往、家族歴】 虫垂炎・腹膜炎(26歳)、血液疾患は血縁になし

【生活歴】 喫煙：未成年の時に少し、飲酒：ビール3杯

【身体所見】 眼瞼結膜貧血なし、眼球結膜黄疸なし、表在リンパ節腫脹なし、心雑音なし、呼吸音正常、腹部平坦、軟、蠕動音軽度低下、腹膜刺激症状なし、肝脾触知せず(CT上は肝脾腫あり：図1)
四肢浮腫なし、皮疹なし

【検査所見】

血液検査

WBC120000/ μ l(blast1.5%、myelo8.5%、meta3.0%、stab23.0%、seg43.0%、lym10.0%、mono3.5%、eos3.5%、baso4.0%)、
RBC385万/ μ l、Hb11.2g/dl、Ht33.5%、Plt122.6万/ μ l、NAPスコア49
T-Bil0.5、AST29IU/l、ALT42IU/l、LDH982IU/l、ALP278IU/l、
feritin341ng/ml、

骨髄検査

骨髄像

過形成性骨髄で巨核球、赤芽球系、顆粒球系ともに増加しており、特定の成熟段階の細胞の増加はない。：図2

遺伝子検査 (FISH法)bcr/abl 100%陽性

染色体検査46,XY,t(9;22)(q34;q11.2) 20/20細胞

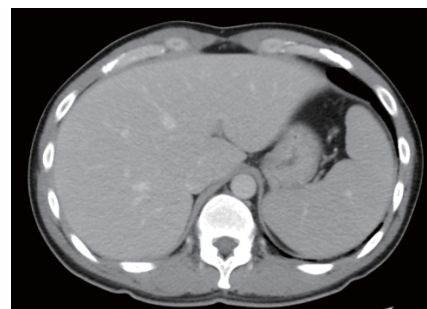


図1

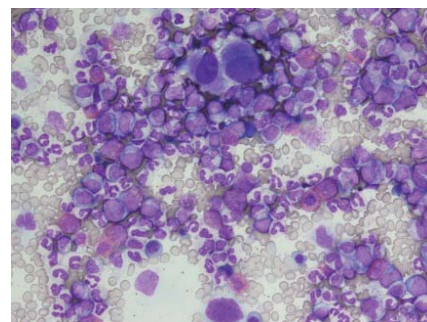


図2

【臨床経過】 検査の結果、CMLと診断し、チロシンキナーゼ阻害薬(TKI)を開始した。開始3週間後には血液学的寛解(血球が正常値になり脾腫などの臨床症状が消失)となり4ヶ月後には分子遺伝学的寛解(bcr/abl遺伝子が陰性化)となった。特に有害事象もなく現在も内服治療を継続している。

【考察】 CMLはフィラデルフィア染色体が造血幹細胞で作られ、そこから分化、成熟した白血病細胞が大量に作られる病気です。

CMLは慢性期、移行期、急性転化に分けられ、慢性期の場合は自覚症状がないことが多く、健康診断や他の理由で血液検査をしたときに偶然に見つかる場合が多いです。

ブスルファン、ハイドロキシウレアしかなかった時代は治療成績は散々でしたが、インターフェロン α や造血幹細胞移植により治療成績が改善しました。更に2001年に分子標的薬のチロシンキナーゼ阻害薬が登場により劇的に治療成績が改善しました。(図3)しかし、移行期、急性転化期ではいかなる治療でも成績は不良であり、慢性期のうちに治療をすることが重要です。

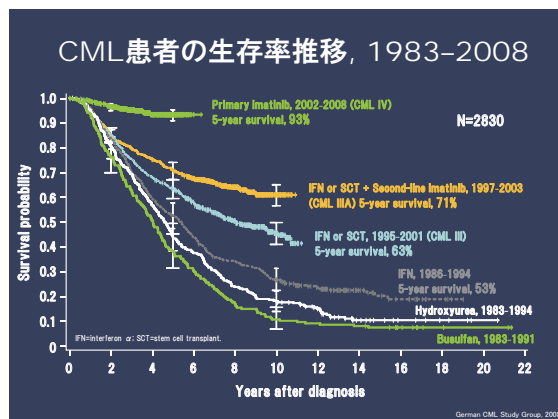


図3



都立多摩総合医療センター ● 人事異動

【採用】平成26年6月1日付
脳神経外科医員

寺西 裕

【採用】平成26年7月1日付

泌尿器科医員

内藤 晶裕

産婦人科医員

小澤 桃子

【転入】平成26年7月16日付
事務局長

古屋 留美

【転出】平成26年7月16日付

外科部長

大島 哲

事務局長

高野 豪

【昇任】平成26年7月16日付

歯科口腔外科部長

重松 司朗

呼吸器内科医長

北園 美弥子

消化器内科医長

堀家 英之

●● 各種講習会・勉強会のご案内(医療従事者向け) ●●

● 連携医交流会

平成26年9月18日(木) 午後7時～午後9時 講堂フォレスト・職員ラウンジ

会費：4,000円 ※9月4日(木)までに医療連携係までご連絡をお願いいたします。

● 医療連携臨床懇話会

平成26年10月23日(木) 午後7時～午後9時 都立多摩総合医療センター講堂フォレスト

- 「肺非結核性抗酸菌症の臨床」 呼吸器・腫瘍内科医長 高森 幹雄
- 「安心してはいけない一過性脳虚血発作～診断から治療まで～」 脳神経外科医長 堀川 弘吏

● 公開C P C 各日とも午後6時～午後7時 4階401会議室

平成26年9月18日(木) / 平成26年10月16日(木) / 平成26年11月20日(木)

●● 各種講習会・勉強会のご案内(患者さん向け) ●●

※参加無料、事前予約不要です

● 糖尿病講習会 (会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

- 「糖尿病の内服薬」「糖尿病の運動療法」「嗜好品等について」

日時：平成26年9月17日(水) 午後2時から午後4時

- 「メタボリック・シンドローム」「血液検査について」「動脈硬化と食事」

日時：平成26年10月15日(水) 午後2時から午後4時

- 「糖尿病と高血圧」「教育入院について」「減塩方法の実際」

日時：平成26年11月1日(水) 午後2時から午後4時

● 腎臓病講習会 (会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

日時：平成26年10月28日(火) 午後2時から午後4時

当院は原則として、**紹介予約制**です。
外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、
紹介状をお願い致します。

ご意見、ご投稿、お問い合わせは
医療連携係(秋山・渡邊・高橋 内線2171)まで

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL：042-323-9200

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX：042-323-9205

緊急の場合…必ず事前にご連絡ください

代表電話：042-323-5111から、①平日の午前9時～午後5時は「〇〇科責任医師」、②午後5時以降、土曜日、日曜日及び祝祭日は「〇〇科の救急担当医」とお申し付けください。

※一部の診療科では、夜間・休日は専門医がおりませんので診療できない場合があります。

※受診が決まった場合は、患者さんに紹介状(診療情報提供書)をお渡しください。

東京都立多摩総合医療センター 〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29
TEL 042-323-5111(代表)

